

第3回自殺対策計画推進委員会 委員からの意見及び対応まとめ

対応分類			A: 計画に反映させたもの C: 今後、計画に基づく個別施策の実施により対応が可能となるもの		B: 意見の趣旨が既に計画又は施策に反映されているもの D: 計画に反映できないもの又は参考意見とするもの			
No.	委員	ページ	該当箇所 (項目など)	意見等	分類	対応	調整先	
1	桑原委員	19	ウ 出生数と産後ケア事業利用者の割合	図は「産後うつ病ハイリスク者」としているが、文中では「産後うつ病の可能性のある母親」となっている。ハイリスクという表現で問題ないと思うが、どちらか統一した方がよい。	A	ハイリスク者で統一します。		
2	桑原委員	24, 27	図	両方とも参考となっているが、令和4年度のものは参考ではなく図として扱ったほうがよいのではないか。	A	令和4年度のものは図番号に変更します。		
3	桑原委員	1	1 計画改定の趣旨 3段落、4行目	「24年以降最も多い」と書かれているが、「以降」というと24年度も入ってしまうため、「25年以降」が正確ではないか。	A	ご意見のとおり修正します。		
4	桑原委員	6-7	図2-2-2・図2-2-3	順番が逆の方がいいのではないかと。また、図2-2-3の数字が小さく、令和2・3・4年の自殺者数は文章だけだとわかりづらい。P9の図と同じように、下に表を追加すると良いのではないかと。	A	ご意見のとおり図の順番を入れ替えます。また、図2-2-3については、より数字が大きい別の図に差し替えます。		
5	桑原委員	6-7	図2-2-2	説明がないので、入れた方がよいのでは。但し図に令和3年までしか入っていないので令和4年まで入れてほしい。この図ではなく、厚労省の「自殺率の年次推移」の資料を使用してほしいか。	A	図2-2-2の説明として「年齢別では、一貫して50～59歳の自殺死亡率が高くなっています。また、19歳以下の自殺死亡率は、新型コロナウイルス感染症の流行が始まる前から増加傾向にあり、令和4年度の小中高生の自殺者は514人と過去最高となりました。」を追加します。また、図を見やすく伸ばし、令和4年度を追加します。(計画書は白黒印刷のため、カラーの図が利用できないため、現行の図を加工するかたちとします。)		
6	桑原委員	9	図3-1-1	図はH21年からR4まで入っているが、対応する表がH24からになっているので統一した方がよい。	A	H24に数字が伸びていることが分かるよう、図にはH21から入れていたが、表はスペースの問題で省略していました。標記を工夫し、図と表を統一するようにします。		
7	桑原委員	15		表3-4-1と書いてあるのは図3-4-3ではないか。	A	図3-4-3と表3-4-1が正しく、訂正しています。		
8	堤委員	26	ウ 自己肯定感と居場所について	データの解釈の問題で、「自己肯定感を高めていくためには第3の居場所が必要」という結論も分かるが、逆に、自己肯定感が高く活動性が高いから居場所を持っているということも言える。結論は間違っていないと思うが、「可能性がある」等断定的でない表現にした方がよい。	A	「このことは、自己肯定感を高めていくためには、多様な人との交流や体験の機会を増やしていくことが重要であり、そこに第3の居場所の役割があることを示している可能性があります。」という記載に改めます。	青少年課	
9	藤原委員	28	イ こどもと家庭の相談室 新規相談件数の推移	修正後の方が分かりにくい文章に思える。「重複受理をやめた」という表現の方が分かりやすかった。また、児童相談所と市の役割分担がわからない。修正前にあったような、役割分担の記載が必要では。	A	「令和4年5月から児童相談所との重複受理の取り扱いを廃止したため、令和4年度の虐待相談件数は見かけ上、減少しています。なお、児童相談所で扱う件数も含めると市全体での虐待相談件数は大きな増減はなく推移しています。」という記載に改めます。児相と市の役割分担については、単純に分けられないため、ここには標記しないこととします。	こども相談課	
10	藤原委員	63-65	イ 教職員や保護者、支援者との情報共有	自殺対策には地域住民の協力が不可欠だが、今の表現だと学校関係者だけに限った話に聞こえるため、地域住民のことも示してほしい。	A	基本施策の9「家庭や地域における、子ども・若者の自殺対策に関する知識の普及啓発及び支援体制を整えます。」に変更します。また、文中に「地域」「地域住民」を追記します。さらに、(2)家庭・地域における自殺対策への普及啓発に「エ地域ぐるみの自殺対策に関する普及啓発 地域住民ひとり一人が、子ども・若者を地域で支えていくという意識をもち、あいさつや声かけなどを通して、ゆるやかに見守る役割を担うことができるよう普及啓発を行います。」を追加します。取組内容に「地域住民を対象としたゲートキーパー養成講座を実施し、地域で見守る人材を育成します」を追加します。		
11	植松委員	61	施策8 枠内2行目	「庁内他課」になっているが、同ページ(3)では「庁内各課」となっているため、こちらも「各課」にそろえるべきではないか。	A	ご意見のとおり修正します。		
12	植松委員	28	ア 暮らしと福祉の相談窓口	「社会的孤立」と「メンタルヘルスの課題」が自殺につながりやすいとして表で印をつけているが、計画5Pライフリンクの図、11P自殺の原因・動機の図等を見ると、この2つだけでなく、どの相談もハイリスクなので、限定しない方がよいのではないかと。	A	表の網掛けを削除するとともに、「社会的孤立や家族関係、経済的困窮、メンタルヘルスの課題など、自殺につながりやすい相談が上位を占めています。」に変更します。		
13	植松委員	19	ウ 出生数と産後ケア事業利用者の割合	エジンバラ産後うつ病質問票というのがどういう内容のものかわかりづらい。注釈をつけるか、固有名詞を出さないか、どちらかにした方がよい。	A	P21に注釈を入れます。		
14	柴田委員	61	(1)妊娠から子育て期までの切れ目のない支援	ネウボラすくすくの名前が変わるかもしれないから削除したとのことだが、今後名称が変わるとしても、一般的なことより具体的に名称まで書いた方が主体的な取組にみえて良いと思う。	D	主管課と協議したところ、現時点ではセンターの名称や役割分担が未定のため、計画の記載は現行のままとする事となりました。主管課とは引き続き調整をすすめていきます。	こども相談課	

No.	委員	ページ	該当箇所（項目など）	意見等	分類	対応	調整先
15	柴田委員	24	イ 自己肯定感と悩みの相談先について	H26年度の調査とR4年度の調査は、R4年度は事業の事後アンケートであり、少し質が異なるため比較するのに違和感がある。その点をもう少し考察に加えたかどうか。	B	R4年度のはしくは事後アンケートではなく、事前アンケートでした。失礼しました。事前情報がない状態でのアンケートのため、条件は同じと考え、説明文は現行のままとしたいと思います。	
16	柴田委員	24	参考の図（平成26年度）	Nの数字の男子と女子の合計が合わないのはなぜか。	D	平成26年度のアンケート結果のおりの数字です。理由として、性別の選択漏れや「どちらでもない」選択肢がなかったため、などが考えられます。	
17	渡邊委員			重点施策「女性がいきるための支援」として、女性のことはよく書かれているが、男性のことをもっとフォーカスしても良いのではないか。例えば介護や子育ての現場でも男性に負担がかかるが増えている。	A	P57の図4-5-6「相談や助けを求めることへのためらい」の図を男女別に変更し、P58「(1) SOSを発信しにくい人への対策」の最後に次の文章を追加します。「特に男性は女性と比べて相談や助けを求めることにためらいを感じる傾向にあることから、周りがSOSに気づき、支援につなげられるよう相談体制を整えていきます。 また、希死念慮をもつ者の割合が高いことが指摘されている性的マイノリティの人に対しても、正しい理解を促進するとともに、相談につながりやすい環境を整えていきます。」	